

経営比較分析表（令和4年度決算）

佐賀県 唐津市

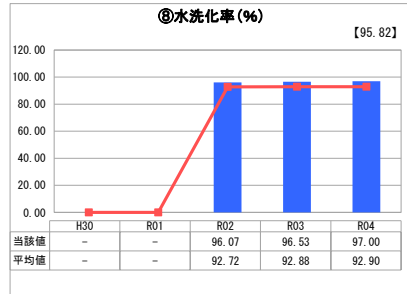
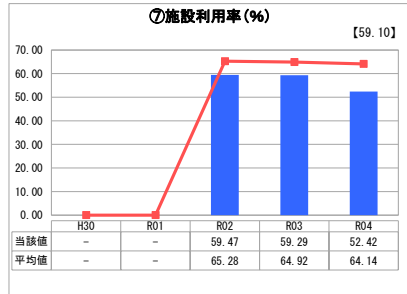
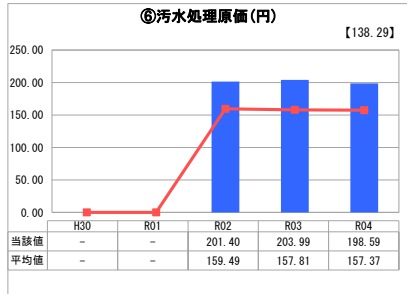
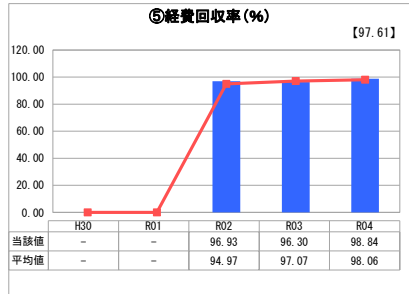
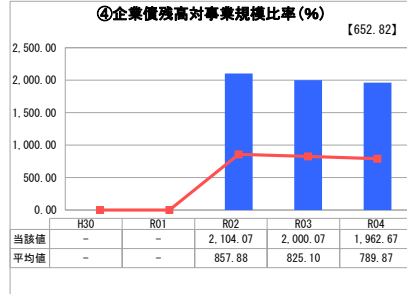
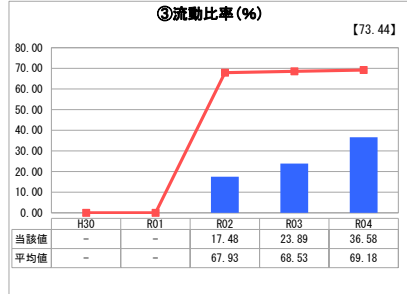
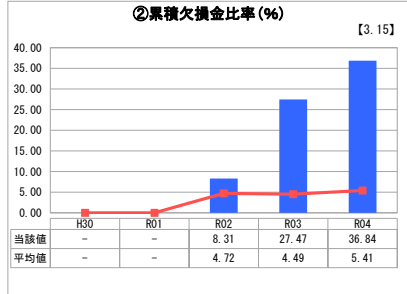
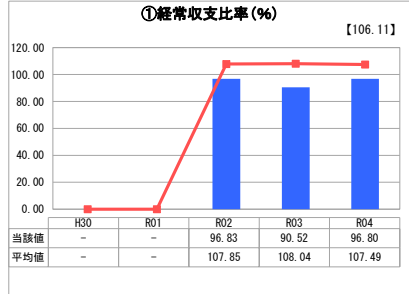
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	42.67	63.08	93.03	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
116,972	487.60	239.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
73,377	17.88	4,103.86

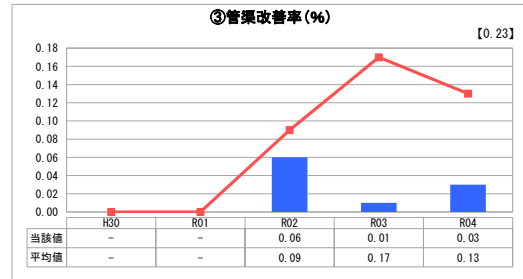
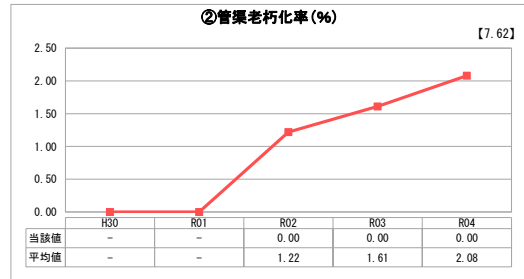
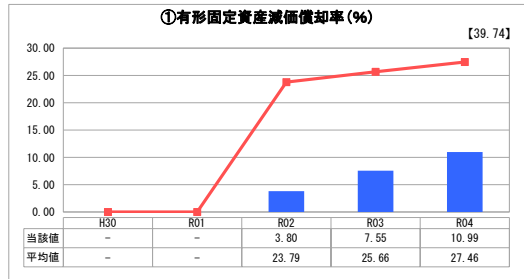
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率について、企業債元金償還金に充当した他会計補助金の収益化を始めたことにより、令和3年度より若干数値は改善したが、依然として100%を下回っている。
 ② 累積欠損金比率について、単年度の損失は令和3年度に比べて減少しているが、累積欠損金を解消できていないため、悪化している。
 ③ 流動比率については、R3年度に比べ未払金の額が増加したが、現預金の増加も大きかったため、プラスとなった。
 ④ 企業債残高対事業規模比率について、企業債残高は減少したが、料金収入の減少もあり、令和3年度に比べて減少率は緩やかとなった。
 ⑤ 経費回収率について、料金収入は減少となったが汚水処理費も減少したため、令和3年度に比べてプラスとなった。
 ⑥ 汚水処理減価について、有収水量は減少したが、⑤と同様に汚水処理費が減少したため、若干のマイナスとなった。
 ⑦ 施設利用率について、晴天時の1日平均処理水量が減少したため、令和3年度に比べてマイナスとなった。
 ⑧ 水洗化率については、人口の流入等もあり、令和3年度に比べ、わずかではあるがプラスとなっている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率については、減価償却費の増加により、約3%程度の増加となった。類似団体と比べても、まだそれほど高くない数値といえる。
 ② 管渠老朽化率については、耐用年数に達した管がないため0%となっている。
 ③ 管渠改善率について、管渠の補修に関する工事が増加したため、令和3年度より高い数値となっている。

全体総括

○ 企業債元金償還に充てた他会計補助金の収益化を始める等、経営の改善に取り組んではいるが、経常比率や、累積欠損比率を改善させるためには、人口減少等により料金の収入について減少傾向にあるため料金改定の検討が必要である。
 ○ 動力費及び労務単価の上昇などによる施設の維持管理費が増加しており、合理化を図るため、他事業の一部を公共下水道に繋ぎこむ計画を立てている。
 ○ 長寿命化計画に基づき更新工事を随時行っているが、資金が少ないため、予防保全が行えずに壊れてからしか対応できない機器が一定数みられる。急に訪れる可能性がある。大きな修繕に備え内部留保の確保も必要となる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。